

写真で振り返る 県議選

熱く戦った9日間



出馬会見 2月7日

たすき掛けに新たな決意

4月1日告示日/必勝祈願祭



事務所開きと出陣式



矢田町長の応援演説にも熱が入る



いざ、出陣！ 選挙カーから第一声

感激の初当選！ 初陣を飾る！



遊説隊も気合が入る



早々と当選確実の報に、支持者が集まる

万歳！の大合唱！！



当選！舟田後援会長と共にダルマに目入れ



お祝いの言葉に感激！（桜川前県議）

やけだ宏明

県政報告 Vol.1 2012

発行者：やけだ宏明事務所
発行日：2012年1月1日



県政 360度 365日

ごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

さて、昨年4月の統一地方選挙におきましては、皆様のお力により県政の壇上へ押し上げていただき心より感謝を申し上げます。

昨年は6月と12月の定例会におきまして登壇の機会をいただき、森林公園や河北潟のこと、さらにAEDの普及等について発言してまいりました。

今年も地元・津幡町や内灘町、かほく市をメインに県政で発言し続けていきたいと考えております。また、昨年暮れには庄町地内に私の事務所を開設させていただきました。皆様の声を頂戴し県政に届けていきたい所存でありますので、お近くにお越しの際は気軽にお立ち寄りください。

さて、昨年は東日本大震災と福島第一原発事故による放射能汚染等で、今までに体験したことのない災害にみまわれ、改めて防災体制の強化と対策の見直し、危機管理の在り方について考えさせられた一年でした。不幸にして被災された方々には、改めてお見舞いを申し上げ、一刻も早く復旧・復興しますようお祈りし、新しく生まれ変わる東北の姿に期待するものであります。また、今回の被災による教訓を決して無駄にせず、安全・安心な町づくりに私も微力ながらお手伝いしていく覚悟です。

最後に、皆様には今後ともさらにご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、この一年が良い年となりますようお祈り申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

平成24年1月

石川県議会議員

焼田 宏明



自由民主党

◀やけだ宏明の公式HP開設しています。

<http://www.yakeda.jp/>
にアクセスしてみてください。

ブログも更新中。ぜひ、ご覧ください。
「やけだ宏明の県政360度、365日」

新たに、事務所を開設しました。

お近くにお越しの際は、気軽にお立ち寄りください。
〒929-0327 石川県河北郡津幡町庄ウ57-1
電話：076-288-7828 FAX：076-288-7827



矢田富郎 津幡町長 × 焼田宏明 県議会議員

大いに語る。 津幡町のこれから— 「町づくり・夢語り」

焼田県議：町長、新年明けましておめでとうございます。私も桜川県議の後を受けて4月に皆様のご支援のおかげで県議会議員になりました。早いもので8ヶ月が過ぎ、私自身はただひたすら走ってきたとの思いです。

矢田町長：私の経験を言うのもなんですが、県議会議員の仕事は自分からやらなければ暇ですが、自分で動き出すとか、行動を起すと忙しい身分です。そういう意味で負託を受けたわけですから県民の為に一生懸命頑張っていたと願うものです。

焼田県議：去年は、私にとってはまさに今までの人生が激変した年でした。県議会議員という立場となり、生活も仕事のありかたも一変しました。判らないことも沢山ありますが、県議会議員の先輩や津幡町議会議員のみなさんにも教えていただきながら全力で頑張っていくつもりです。さて、今日は津幡町の課題や将来に向けた夢などをお聞きかせたいと思いますが、矢田町長はこの1年を振り返っていかがでしたか。

矢田町長：私も町長となってもまもなく2年になろうとしています。忙しい日々を過ごしていますが、大変充実した毎日です。お世話になった津幡町のためにできることを考える、やりがいのある仕事と受け止めています。この間、公約してきたことが少しずつ前進しているのかな、しっかりと取り組んでいくための種まきができつつあるとの思いも持っています。まず、透析の処置ができる病院が町内に開設され診察を開始をしたことは、大変ありがたかったと思います。患者さんにとっても朗報ではないでしょうか。昨秋に森林公園で健民ウォーク津幡大会“1・2・SUNつばた元気ウォーク”が開催されました。大勢の方に参加いただきました。町の名産にしようとしている「まこも投げ大会」も3回目となり参加者が増えました。森林公園の活性化という点では、毎月なんらかのイベントができれば面白いな…町民のみならず、県民の皆さんに来ていただく機会を増やしていきたいですね。要望の多い温水プール建設は具体的に動きはありませんが、1・2年では無理ですが間違いなく実現したいと思っています。都合のいい話ですが、出来るだけ町の持ち出しを少なくして、民間の力を借りることも視野に、町民の負担も軽くして事業を進めていきたい。決して50mの公認プールを考えているわけではないんです。スポーツの向上は二の次といいますか、町民の健康づくり、成人の方の体力づくり、子どもたちやお年寄りの健康増進のためのプー

ルにしたい。

焼田県議：景気と雇用についても喫緊の課題です。

矢田町長：企業誘致ですが、話は舞い込んでくるのですが、実現までにはなかなか至らないのが現状です。能登・加賀・越中の分岐点という津幡町の地理的優位性を活かす工夫や提案を地道に訴えていく必要がありますし、工業だけにとどまらず、広い分野での企業誘致を考えていかなければならないと知恵を絞っているところです。とにかく世の中冷えているのも影響が大きいです…。

焼田県議：27年には新幹線が開業します。当然のことながら観光客も増えてきます。あいにく津幡町にはこれといった観光資源がありません。能登への通過点として通り過ぎてしまうことのないよう仕掛けも考えなければなりません。

矢田町長：21世紀は観光の世紀といわれますが、人々が集まると言う点では倶利伽羅さんがあります。大河ドラマ誘致が実現する時点では大いに話題になると思っています。観光地には見せるものも在りますが、津幡町の場合は「10年後の観光地を作る」、そんな思いで町づくりを考えていきたい。例えば、観光だけでなく農業の活性化という点でも「農業公園」という構想を持っています。中山間地といいますが里山を活かして、果実作りや野菜作りが1年間中楽しめる。子どもやお年よりや障害を持つ方々に農業を通じてさまざまな楽しみ方ができるような公園です。その場で食べてもらう、その場で売ってもらう市場ができればいいですね。さらに採れたものを給食に使う、町のスーパーでも売ってもらう。言うなれば地産地食です。併設したログハウス風レストランではオリジナル野菜スープが楽しめるとか、採れたてメニューが味わえるとか、夢が膨らんでいきます。その周辺に3,000本のもみじの木を植えて、全山真っ赤になるようなそんな場所が出来れば、とても話題になると思います。石川県にもそんな場所は無いですね。見事に紅葉したその景色をポスターにして東京駅に貼って、「津幡へいらっしやい」金沢から20分足らずでこんな素晴らしい眺めの場所がありますよと発信する。さらには秋だけの紅葉だけでなく、春の梅(しだれ梅)、夏の紫陽花といった風に四季折々の素晴らしい景色を提供できるとなれば面白いことになりますよね。そして、

町民一人一人に果樹園やもみじの木1本1本のオーナーになってもらいたい…となれば3,000本はなんとかなるのではないのでしょうか。地域の選択をして、ぜひやってみたいと思います。津幡版・観光名所づくりプロジェクトとでも名付けましょうか。

焼田県議：農業公園も楽しいですし、3,000本の見事な紅葉も目に浮かぶようですね。私も家族ぐるみで「もみじ

オーナー」になりますよ。観光資源が無ければ作ればいいという発想に、新しい町づくりの夢を見る思いです。津幡町には隠れた魅力がいっぱいありますね。

矢田町長：それと長野県や富山県、小矢部市と取り組んでいる「義仲と巴」のNHK大河ドラマの誘致活動です。新幹線の27年開業をにらむと28年か29年の大河ドラマになら

ないか、新幹線との相乗効果も期待できますし、あの手この手で誘致活動をやっていききたい。そんな思いで取り組んでいます。もちろん知事には先頭に立って汗をかいてもらう必要がありますし、県議にもよろしくお願ひしたいところですよ。

焼田県議：承知しました。次に河北潟についてです。私も県議会で質問しましたが、津幡漕艇場の底が浅くなっています。浚渫工事が急がれるわけですが、早急に県にお願ひしたいと思っています。

矢田町長：工事には多額の経費を要すると思いますが、25年度までに予算をつけていただいでB級の公認コースとして更新しなければなりません。27年には交流レガッ





夕、全中大会も予定されています。津幡は親水空間があまりないんですが、河北潟には農業問題もあり、環境、水質浄化の問題もあります。隣接する2市2町と協力しながら水辺公園といった将来設計も含め取り組んでいきたいと思っています。

焼田県議：森林公園に戻りますが、昨年5月22日からMISIAの森プロジェクトがスタートしました。津幡町にとってこの機会を捉えて里山の保全などに取り組み、いかにしてPRしていくのか。できる範囲は限られているかもしれませんが、かつてのポップヒルのような野外ライブイベントを独自で企画していけば、活性化に繋がるのではないのでしょうか。

矢田町長：キックオフから5年間、生物の多様性について調べることを子どもたちが楽しんでやってもらっているのを聞くと、良かったと思っています。どんな生き物が生

息しているかを調べているなかで発見もあると思います。世界に1箇所しかない場所ですし、MISIAさん自身もコンサートなどを実現したい意向があると聞いています。またMISIAさんのファンの中でネットなどでも取り上げられ、訪れる人もいと聞きます。ぜひ、森林公園の活性化につなげていきたいと期待をしています。森林公園は県の施設ですが、町独自ではなかなか難しいのですが、街灯もない、その何も無いことを逆手にして「星のレストラン」といいますかログレストランが在ったら良いかと考えています。宿泊も出来て、最大10人～20人限定のフランス料理を出す。各部屋をつないで、ログチェアがある。美味しいステーキとワインと野菜などを味わえる、1年に1度の結婚記念日に来ていただくようなレストランです。周りには何もないところだからこそ、ごゆっくりと寛いでもらえる。実際、金沢の街中とは星の数が全然違います。森林公園はまさに満天の夜空です。そんなとびっきりの店であり、1泊2食で2万円とか少々値段が高くて満足度も高い「星のレストラン」・・・どうです、いいでしょう！津幡町でひとつやってみようかと・・・夢ですけどね。新しい年の初めですから夢でもでっかく持って、チャレンジ精神で頑張ります。

焼田県議：私も県議会議員になってみて、津幡を見る目が変わりました。津幡町を石川県全体の中でどう位置付けるか、どんな役目を果たしていくべきなのか、そのことがふるさと津幡の発展になっていくのだと感じました。矢田町長としっかりスクラムを組んで、住民の皆さんの声を県政に届けていきたいと思っています。本日はありがとうございます。



対談を終えて



町長室で1時間にわたり、紙面のほかにもいろんなお話をさせていただきました。もみじ3,000本の植樹とか、農業公園の建設であるとか、星のレストランとか、何か新しい津幡町のイメージが湧いてきそうです。ユニークでアイデア溢れる発想と情熱を持って町政に邁進する矢田町長に感心するばかり。大いに刺激を受けた対談でした。

やけどの県議会レポート

6月議会 6月20日 一般質問から（一部抜粋）



石川県森林公園について

① MISIAの森について

焼田県議：国際生物多様性の日にMISIAの森オープニングイベントが森林公園で行われた。環境問題や里山里海の利用・保全に対する意識の向上が機運となってMISIAの森が誕生したと思う。どのような期待を持っているのか。

谷本知事：MISIAの森プロジェクトは、昨年COP10名誉大使である歌手のMISIAさんから表明があった。MISIAさんは「森の保全活動と地元の子供たちによる生き物調査やアート作品を通じた生物多様性の発信活動を中心に進めていきたい」意向で今後5年間の取り組みとなる。生物多様性への関心を高め理解を深める観点から大事な取り組みだ。また屋外ライブやイベント構想もあり活性化につながる。津幡町と連携し積極的に協力したい。

② 整備について

焼田県議：公園には路肩や道路斜面に崩落寸前の箇所などがあり整備が急務だ。また、園内に宿泊研修施設を設ければ、県内外の小中学校や幼稚園、保育園の子供たちをバス遠足等で呼び寄せることが可能になると思うが所見を聞く。

観光交流局長：適切な維持管理や林道の樹木等の修繕や伐採等を行ってきた。今年度は林道の補修や汚水処理設備の改修、携帯電話の不感地帯の解消も8月をめどに改善する。宿泊施設としてログハウスやキャンプサイトを備えており、体験学習室を備えたインフォメーションセンターもある。県内のみならず富山・福井両県の学校に対し校外活動の誘致を働きかける。

③ 救助犬について

焼田県議：公園内に石川県災害救助犬公認訓練場があるが、災害救助犬の存在は余り知られていない。救助犬をふやすことは防災の観点からも緊急課題であり、囑託犬の頭数拡大のためにもドッグランの設備が必要である。多目的ドッグランを併設してはどうか。

危機管理監：森林公園の災害救助犬訓練施設では毎年審査会を開催し、すぐれた救助犬に災害時の協力を求めるため関係団体と応援協定を締結している。訓練、育成には環境の整った訓練場所と熟練した指導員の確保など質の高い訓練体制が必要で、森林公園の遊休地を訓練場に整備し無償で団体に貸している。併設してドッグランを整備することが頭数拡大につながるのか勉強したい。



大河ドラマ誘致について

焼田県議：津幡町ではNHK大河ドラマ「義仲と巴」の誘致活動を行っており、長野を出発し北陸各地で合戦を重ねながら上洛した足取りが、北陸新幹線ルートとほぼ重なることから新幹線開業に合わせて観光客誘致に大きく貢献できる。昨年10月に長野、富山両県の関係機関で組織された「義仲・巴」広域連携推進会議の顧問に石川県知事が、代表幹事に津幡町長が就任した。大河ドラマ誘致活動に対する所見を聞く。

谷本知事：富山県と長野県が先行して取り組み、平成21年から誘致活動が行われてきた。本県も倶利伽羅の古戦場などゆかりの名所旧跡がありドラマ誘致は大変意義がある。昨年、富山、長野両県と連携してNHKに要望書を出すと同時に、県と7つの市町が広域連携推進会議に参画をし、今年再度、三県知事の連名で要望書を提出した。義仲・巴ゆかりの名所旧跡等を紹介するイラストマップを作成するなど、北陸新幹線金沢開業を見据えた効果的な取り組みを進めていく。



窯元など新たな観光資源について

焼田県議：石川県では九谷焼を初め大樋焼、珠洲焼が有名だが、歴史は浅いがなりわいとしている方も大勢いる。津幡町にも倶利伽羅窯がある。このような窯は県内に幾つもあがるが、隠れた工芸品などの発掘を各市町挙げて取り組めば、多彩な資源を活用した地域づくりの支援になるのではないかと。

観光交流局長：近年の観光ニーズが物見遊山型から体験志向へと変化しており、新たな観光資源の掘り起こしは非常に重要である。津幡町倉見の倶利伽羅焼をはじめ県内には数多くの窯元がある。陶芸体験は人気が高く、さまざまな体験プログラムを提供するとともに、グリーンツーリズムや産業観光を紹介するガイドブックで県内の窯元を広く紹介している。



スポーツの振興について

焼田県議：国民体育大会で、毎年得点を稼いでいる種目は8競技、10年間無得点の競技は6競技ある。競技団体における差は何なのか。国体天皇杯の順位は今のままでいいのか。また、中学校へ進学すると部もクラブもなく大会もないというスポーツ種目がある。天皇杯順位の向上を目指すには継続的な指導や中学校、高校を通じた一貫指導のもと大会参加経験を積むことが不可欠。中学校生活3年間の競技空洞化をなくすための方策を聞く。

谷本知事：国民体育大会の昨年の成績は総合22位で、9年連続で20位台以内を確保した。県体育協会がチーム石川を

掲げ、一丸となって強化に取り組んできた結果である。天皇帝得点を獲得していない競技団体も強化合宿や科学的トレーニングの実践、指導者養成など地道に強化に取り組んでいる。昨年はクレイ射撃競技が優勝を飾るといふ快挙を達成した。重点的に強化する種別の指定や競技力向上を目的とした研修会の実施を通して強化を図っていききたい。

教育長：中学校の運動部活動で競技の継続性や競技力の向上を図ることは大切であるが、小学校で取り組んでいた種目すべてが中学校で行われていないのも現状。中学校生活3年間の競技空洞化をなくす具体的な処方せんはないが、各地域の競技団体のクラブや総合型地域スポーツクラブの場で子供たちが継続してスポーツに取り組むための支援に努めていきたい。

河北潟浚渫について

焼田県議：河北潟東部承水路に大量の土砂が流れ込み、浅くなっている。漕艇コースはオールが湖底につかえてしまう箇所があるという。水深2メートル以上だったものが、平成25年度の更新時には基準をクリアできず公認を外される可能性がある。漕艇コース公認確保のためにも浚渫工事をオフシーズンに計画実施していただきたい。

教育長：河北潟東部承水路にある石川県津幡漕艇競技場は、全国高校総体や国体の競技会場になるなど本県のボート競技の活動拠点。現在、社団法人日本ボート協会の公認コースではあるが、土砂の堆積により一部の水深が認定基準を満たしておらず、平成25年の公認更新時までには浚渫をしなければならない。多額の経費を要することもあり、管理者、県ボート協会、関係機関とも十分協議し検討していききたい。

12月議会 12月6日 一般質問から (一部抜粋)

AEDの普及について

焼田県議：7月に大切な友人が心筋梗塞で亡くなった。宴会後に突然倒れ、心臓マッサージや人工呼吸をやったものの意識が戻ることもなく、救急車で病院へ運ばれたが帰らぬ人となった。AEDの備えさえあればと思うと残念でならない。さまざまな施設にAEDが設置されていれば、万が一の時にも対処できるはず。現在の設置登録台数は県内にどれだけあるか。安全・安心の石川県をアピールして行くためにもAED普及活動は不可欠だ。今後の普及活動の展開を聞く。

谷本知事：公的施設では2月現在で1,350台と着実に普及が進んでいるが、実際に利用されることが重要である。AEDの設置場所を登録し公表している日本救急医療財団への登録

を積極的にするよう市町に依頼したところで、この11月には1,510台と増加している。さらなる普及と講習会も開いていく。

地元産材の地産地消と食育について

焼田県議：学校給食で県産食材を使う割合が30%を超えた市町は5市町に留まっている。10年度は31%と目標の30%を超えたというが、更に県内産、地場産物の活用率をあげていくことが大切である。使用者側としてどう課題に取り組み、対策を考えているのか。

教育長：地場産物を活用した食育の取り組みや献立例をまとめた事例集を作成し、各学校に周知するなど推進を指導してきた。22年度には全国平均を上回る31%となった。いしかわ食育推進計画の中で目標を設定し、市町教委とJA等で十

分な議論をしていく。

焼田県議：学校給食への魚食普及は珠州市と志賀町をモデル市町として「おさかな給食」を実施している。学校給食において地場産物を活用するには安定供給が第一だ。県内一円で「おさかな給食」を実施していくためには、新鮮な魚を加工し一時的に保管するCAS冷凍システムの導入が最善策である。水産業の活性化を図り、地産地消を拡大推進していくため、県が指導的立場でCAS冷凍システム導入を考慮すべきだ。

農林水産部長：CAS冷凍システムは既存の冷凍設備に比べ、初期投資額や維持費が大きく、費用対効果の面で導入に至っていないのが現状である。

森林公園の振興について

焼田県議：先月に MISIA さんのコンサートが開催されたが、森林公園内の「MISIAの森」に日本全国のMISIAファンが来園しており、インフォメーションセンターわくわく森林ハウスに宿泊施設があればという声も多い。園内にはログハウスやキャンプサイトを備えているが、望んでいるのはインフォメーションセンター近くに併設された研修宿泊施設だ。注目を集めている今「自然体験学習施設」が整備され、県内外の小中学校から校外活動を誘致できればと考えるが県の考えを聞く。

観光交流局長：自然体験学習などの誘致で、にぎわいの創出効果が期待できるが、厳しい財政状況の中多額な建設費や維持費、地元の宿泊施設との競合なども考慮しなければならない。時間をかけて研究していききたい。

アニマルセラピーについて

焼田県議：沖縄県の行政視察で「イルカセラピー（イルカ介在療法）」を行っている施設を見た。アニマルセラピーはストレスを軽減させ、精神的な健康を回復させるなど心身に障害のある方などの症状改善に効果がある。のとじま水族館で「イ

ルカとのふれあいビーチ」を開催しているが、イルカを使ったアニマルセラピーをのとじま水族館の運営メニューに加えてはどうか。金沢競馬場で馬とふれあうアニマルセラピーを実施するとか、「いしかわ動物園」でもできればと思う。アニマルセラピーをどのように評価しているのか。

健康福祉部長：障害者施設などを対象に県馬事公苑で触れ合いや乗馬によるホースセラピーを行っているほか、老人福祉施設を毎月訪れ犬との触れ合いによるドッグセラピーを実施している。精神的な安定といった観点からも有意義である。療法としては確立されていないが普及定着も考えていきたい。

葉たばこ農家支援について

焼田県議：県内葉たばこ農家の7割が廃作となり、来年は23戸の農家が続けていくという。耕作面積も45ヘクタールに落ち込む。また、たばこの税収も県たばこ税は約23億3千万円余、市町たばこ税は70億3千万円余と減少傾向にある。県農業総合研究センターでは葉たばこ用耕作機械を他の作物用に改良するなど、葉たばこ農家に対して転作支援をしていると聞く。どのような策をもって対応するのか施策について聞く。

農林水産部長：生産農家の7割の49戸が廃作に応じたが、葉たばこ生産農家の栽培技術は高く、野菜などへの作物転換により農地を有効に活用する指導・支援を行っている。来春からの栽培に間に合うよう支援チームを設置し、能登野菜などの栽培技術指導により一層の生産拡大が図れるよう取り組んでいく。

